



NiFA NEWS

えがお 2017愛顔つなぐえひめ国体 女子・少年男子出場!!

愛媛国体に向けて

女子新潟選抜監督 田中 泰裕

第38回北信越国民体育大会が8月12日(土)より福井県にて開催されました。女子新潟選抜は女子福井選抜に3-0(前半2-0)と勝利し、第72回国民体育大会(愛媛国体)への出場を決めることができました。新潟県サッカー協会ならびに女子サッカーに携わる皆様、また関係者の皆様には感謝申し上げます。

愛媛国体では負けに終わらず、一つのミスが勝利に直結してしまふような試合になりません。また各地域を突破してきた強豪との対戦になりませんが、失敗を恐れず攻守にわたり自分たちが主導権を握ってサッカーができるようチャレンジし、連覇という目標を達成したいと思っています。そのためは10月2日(月)、新潟県代表の持ち味を発揮して千葉県代表との1回戦に

女子新潟選抜は昨年開催された第71回国民体育大会(岩手国体)にて優勝という成績を収め、愛媛国体の連覇という目標が

北信越国体から愛媛国体へ

少年新潟選抜監督 藤田 敬三

今回の北信越国体は、厳しい戦いではありましたが、愛媛国体への出場権を獲得することができました。これも県サッカー協会をはじめ、多くのサッカー関係者の方々の支えがあつたことと感謝しております。

初戦は地元福井戦で控えていることもあり勢いのある相手でしたが、それ以上の高いモチベーションで選手が発揮してくれて6-0の大差で勝利しました。1日空けての石川戦では、前半を1-0でリードし、主導権を握りながらのゲーム展開でした。しかし追加点を奪えずにゲームが難しくなり、同点ゴールを許してしまいました。その後も多くのチャンスを作りましたが、延長戦でも得点を奪えず、最終的には1-1からのPK戦で辛くも勝利しました。ア

タッキングサイドでの質を向上させていくことに課題は残りしましたが、PK戦でも勝利への執念を見せてくれたことは本国体への自信につながりました。決して楽な戦いではありませんでしたが、11年連続の本国体出場に安堵しています。ここからは、本当の意味でのチャレンジなのでプレッシャーから解放された状態で愛媛に乗り込んでいきたいと思えます。受け身にならず、前線からハイプレッシャーをかけ、相手に時間を与えず、奪ったボールをサイドに展開し、アタッキ



かりと勝利して勢いにのり、続く準々決勝、準決勝、そして決勝戦まで勝ち進んで、連覇を目指します。応援よろしくお願ひしませう。最後になりますが、皆様には変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

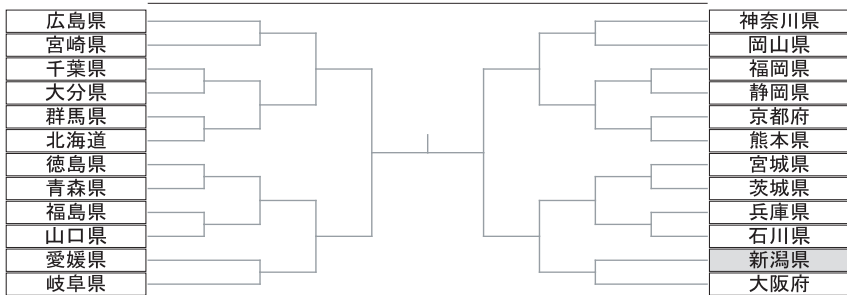


少年男子 2回戦

新潟県 VS 大阪府

日時：2017年10月2日 12:30～
会場：新居浜市営サッカー場第2グラウンド

1回戦 2回戦 準々決勝 準決勝 決勝戦 準決勝 準々決勝 2回戦 1回戦



●新居浜市営サッカー場
(グリーンフィールド新居浜)(新居浜市)
〒792-0851
愛媛県新居浜市観音原町乙 109
TEL：0897-66-2522

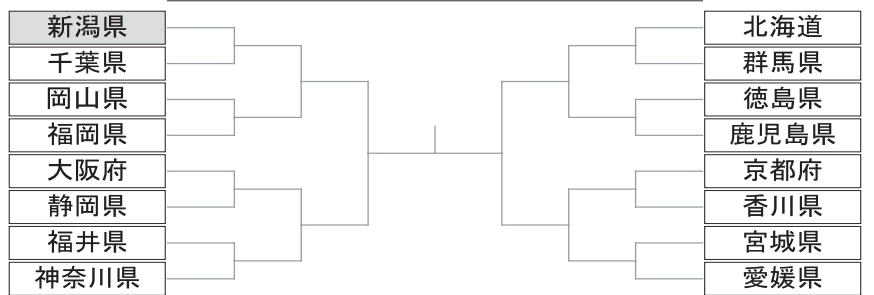


女子 1回戦

新潟県 VS 千葉県

日時：2017年10月2日 9:30～
会場：あけぼのグラウンド(人工芝)

1回戦 準々決勝 準決勝 決勝戦 準決勝 準々決勝 1回戦



●あけぼのグラウンド(愛南町)
〒798-4402
愛媛県南宇和郡愛南町増田 5446
TEL：0895-73-1111
FAX：0895-73-1113



全国大会を終えて

エポルフ C 監督
佐々木 真裕



日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 THE JAPAN CLUB YOUTH FOOTBALL CHAMPIONSHIP

この度、8月15日から北海道帯広市で行われた第32回日本クラブユースU-15サッカー選手権大会に2年連続で出場することが出来た。昨年は得点差であと1点足りず予選リーグ敗退となり。今年はその経験から粘り強く戦い、失点数を減らし、勝ち点を拾いグループステージ突破を目指しました。

グループステージでは横浜FC(関東第11代表)、セレッソ大阪西U-15(関西第2代表)、アリーバFC(九州第6代表)と対戦しました。結果は1勝2敗でグループ3位。ワイルドカードによりノックアウトステージに進出となりました。

決勝トーナメント1回戦では、関西第7代表の大阪府ジュネッスFCとの対戦でした。0対3のビハインドの状況でしたが、3点を返し延長戦に突入。延長後半にセットプレーから決勝点を奪い2回戦進出を決めました。続く2回戦は、関東第1代表の柏レイソルとの対戦でした。後半残り15分までスコアレスでしたがコーナーキックから失点。その後ゴールを奪いにいきましたが、及びませんでした。

最後の試合ですが、北信越大会、全国大会出場に当たり、関係者の皆様より多くのご支援、ご声援頂き誠にありがとうございました。

全国の強豪との対戦を通じたことは、走る・止める・蹴るという、選手個々が持つ当たり前のスキルの高さです。そして、ワンプレーごとに準備、予測があり、多くの駆け引きをしていました。そのようなチームとの対戦を通して、大会期間中に大きく成長することが出来ました。1つのプレーに対する厳しさを日々の活動で意識し、更なる進化(evolve)を目指し日々精進していきたく思います。

最後にありますが、北信越大会、全国大会出場に当たり、関係者の皆様より多くのご支援、ご声援頂き誠にありがとうございました。

日本クラブユースサッカー大会

アルビレックス新潟U-15監督
入江 徹



8月15日から北海道帯広市で全国大会が行われました。今大会を振り返って感じたことは、各チーム自分たちがやるべきことがはっきりといて、徹底していたということ。いろいろなチームがありましたが、しっかりと守備をして前線の能力の高い選手がカウンターを狙ってくるチーム、とにかく相手DFラインの裏にロングボールを入れセカンドボールを拾い、それを繰り返して攻めて来るチーム、3-4-3のシステムでしっかりとボールを繋ぎ相手の状況を判断して攻めて来るチーム、とて

もフィジカルが高く縦への強さがあるチームなど様々な相手と試合をすることが出来ました。その中でアルビレックスは、しっかりとボールを動かし相手の状況を判断して背後や中間を有効に使いながら攻めるということをベースに戦いました。

戦ってみて感じたことは、試合の入りかと思うようにならず、全試合で先制される苦しいゲームとなりました。メンタル面での未熟さというところもあり、相手の勢いを受けてしまい先手を取られて、守備で後手に回

た。この場を借りて御礼申し上げます。

予選リーグ
VS 横浜FC
0対3(0対3, 0対0)
VS セレッソ大阪西
1対3(1対0, 0対3)
VS アリーバFC
3対1(0対1, 3対0)
1勝2敗グループ3位
(ワイルドカードでノックアウトステージ進出)
1回戦
VS 大阪ジュネッスFC
4対3(0対1, 3対2, 0対0, 1対0)
2回戦
VS 柏レイソル
0対2(0対0, 0対2)

予選リーグ第1戦
VS FCリベント
3(2-1/1-0)1
得点者: 遠藤貴成
小田奏、小林太陽

予選リーグ第2戦
VS フレスカ神戸
1(1-1/0-1)2
得点者: 小田奏

予選リーグ第3戦
vs 栃木SC
0(0-2/0-3)5
決勝トーナメント
1回戦(ラウンド32)
vs ヴィッセル神戸
1(0-3/1-1)4
得点者: 遠藤貴成

北信越クラブユースサッカー(U-15)選手権大会を主管して

第29回北信越クラブユースサッカー(U-15)選手権大会が新潟県クラブユースサッカー連盟主催で開催されました。

大会日程等の調整から様々な問題が発生し、右往左往する日々が続く、新潟県クラブユースサッカー連盟理事で幕を閉じました。

ご尽力いただきまし(一社)新潟県サッカー協会、北信越クラブユースサッカー連盟、新潟県クラブユースサッカー連盟の皆様

大会全般を通して、大会開催が多くの、拮抗した試合が多く、全国大会出場をかけた試合(準々決勝)でのPK合戦が4試合中3試合あり、北信越5県のチーム力にも差があまり感じられなくなってきた傾向にあります。

アルビレックス新潟

NiFA医学委員会

トレーナー部会の紹介

NiFA医学委員会は現在、大森豪委員長をはじめとするドクター部会(整形外科医8名)とトレーナー部会(理学療法士13名)から構成されています。我々トレーナー部会の活動としては大きく分けて2つあり、ひとつは各種別の大会および行事での本部医事担当です。これはドクター部会と共同で担当しており、トレーナー部会は3年前より関わらせていただきました。

の先行により、新潟県が北信越地区を牽引するよう見られていますが、他県が追随するかのようには追いかけてきて、新潟県も安穩と構えていることができない状況になってきています。

そして、ご存知の方かもしれませんが、昨年度のクラブユース連盟の大会での北信越地区のポインント数は1ポイントで、全国の9地区では最下位に甘んじています。

新潟県として育成年代のあり方について、3種年代、2種年代そして5種(女子)と指導者の皆さんが感じている課題もあるかと思

います。それが正しく

の先行により、新潟県が北信越地区を牽引するよう見られていますが、他県が追随するかのようには追いかけてきて、新潟県も安穩と構えていることができない状況になってきています。

そして、ご存知の方かもしれませんが、昨年度のクラブユース連盟の大会での北信越地区のポインント数は1ポイントで、全国の9地区では最下位に甘んじています。

新潟県として育成年代のあり方について、3種年代、2種年代そして5種(女子)と指導者の皆さんが感じている課題もあるかと思

います。それが正しく



NiFA医学委員会

トレーナー部会の紹介

NiFA医学委員会は現在、大森豪委員長をはじめとするドクター部会(整形外科医8名)とトレーナー部会(理学療法士13名)から構成されています。我々トレーナー部会の活動としては大きく分けて2つあり、ひとつは各種別の大会および行事での本部医事担当です。これはドクター部会と共同で担当しており、トレーナー部会は3年前より関わらせていただきました。

活動の振り返ると、選手の外傷・障害発生状況には大きな変化はありません。発生部位では足関節を筆頭とした下肢が最も多く、次に腰部、頭部・顔面の順となっています。しかし、ご協力頂けたこと感謝しております。お陰様で選手のコンディションング管理は年々充実したものと



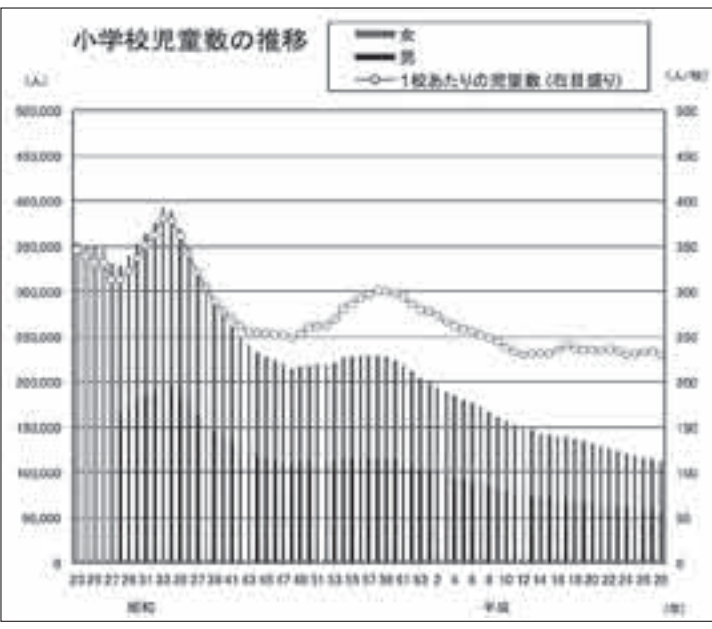
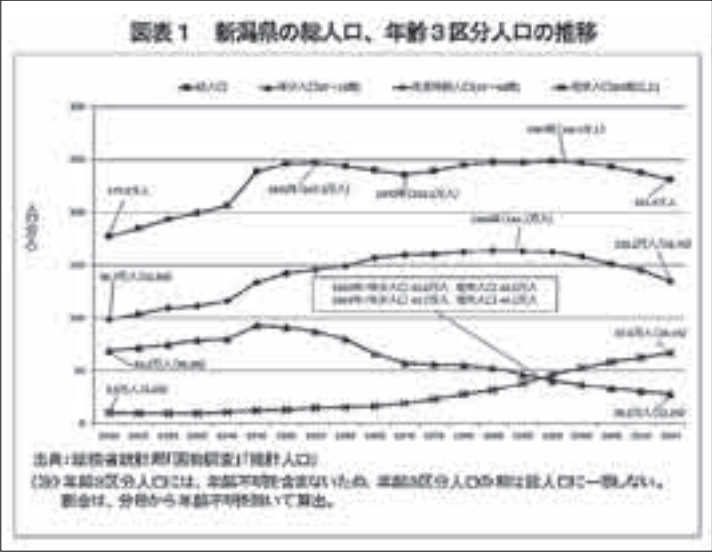
「女子・キッズ普及育成プロジェクト」(新設)について

JFA女子サッカー普及コーディネーター
石川 正記

2000年度以降、全国的に少子化が進む中でも4種年代(サッカー)に初めて触れる年代)の日本協会登録人数は増加傾向にあった。ところが2013年度31万8千人をピークに2016年度28万9千人と約3万人

表3-1 児童数(小学校)

年度	児童数	1校あたりの児童数
昭和29年	392,226	381
昭和30年	381,000	370
昭和31年	370,000	360
昭和32年	360,000	350
昭和33年	350,000	340
昭和34年	340,000	330
昭和35年	330,000	320
昭和36年	320,000	310
昭和37年	310,000	300
昭和38年	300,000	290
昭和39年	290,000	280
昭和40年	280,000	270
昭和41年	270,000	260
昭和42年	260,000	250
昭和43年	250,000	240
昭和44年	240,000	230
昭和45年	230,000	220
昭和46年	220,000	210
昭和47年	210,000	200
昭和48年	200,000	190
昭和49年	190,000	180
昭和50年	180,000	170
昭和51年	170,000	160
昭和52年	160,000	150
昭和53年	150,000	140
昭和54年	140,000	130
昭和55年	130,000	120
昭和56年	120,000	110
昭和57年	110,000	100
昭和58年	100,000	90
昭和59年	90,000	80
昭和60年	80,000	70
昭和61年	70,000	60
昭和62年	60,000	50
昭和63年	50,000	40
昭和64年	40,000	30
昭和65年	30,000	20
昭和66年	20,000	10
昭和67年	10,000	5
昭和68年	5,000	2
昭和69年	2,000	1
昭和70年	1,000	0.5



3-1 児童数(小学校)
小学校の児童数は、昭和30年の392,226人をピークに減少を続け、昭和48年には214,623人となりました。その後は緩やかに増加しましたが、昭和58年から再び減少し始め、平成28年には112,133人となり、昭和33年と比べると、3割未満にまで減っています。
1校あたりの児童数は、児童数同様昭和33年の381人をピークに減少傾向にありましたが、昭和49年から増加に転じました。その後、昭和59年から再び減少しはじめ、平成28年には230人となりました。

なっている。さらに2017年8月現在は227万人を割り込んでいる。特に年少人口(0才から14才)は戦後の第1次ベビーブームをピークに減少し2014年には28、2万人(総人口に占める割合は12、2%)となつていいる。県教育庁のホームページによると2000年に15万人以上いた小学生児童数は、2016年度には約11万人と10数年間で約4万人も減少している。(男子児童数5、7万人、女子児童数5、4万人)

この10数年間、県内小学生児童数は減少傾向であったが、2002年日韓共催のW杯新潟開催や2004年アルビレックス新潟のJ1昇格という追い風を受け、また協会が推進したU-10キッズ大会の新設やU-8フェスの新設、227万人を割り込んでいいる。特に年少人口(0才から14才)は戦後の第1次ベビーブームをピークに減少し2014年には28、2万人(総人口に占める割合は12、2%)となつていいる。県教育庁のホームページによると2000年に15万人以上いた小学生児童数は、2016年度には約11万人と10数年間で約4万人も減少している。(男子児童数5、7万人、女子児童数5、4万人)

この10数年間、県内小学生児童数は減少傾向であったが、2002年日韓共催のW杯新潟開催や2004年アルビレックス新潟のJ1昇格という追い風を受け、また協会が推進したU-10キッズ大会の新設やU-8フェスの新設、227万人を割り込んでいいる。特に年少人口(0才から14才)は戦後の第1次ベビーブームをピークに減少し2014年には28、2万人(総人口に占める割合は12、2%)となつていいる。県教育庁のホームページによると2000年に15万人以上いた小学生児童数は、2016年度には約11万人と10数年間で約4万人も減少している。(男子児童数5、7万人、女子児童数5、4万人)

4種年代における指導者及び審判員の資格等について

第4種委員会

今年度から4種年代(2020年度以降はB級以上)とされまし員の資格等に係る変更がなされましたが、その変更に対する第4種委員会の対応等をお知らせします。

「全国U-12年代会議」について

第4種委員会

日時：2017年9月16日(土) 12時~16時
場所：JFAハウス ヴァーチャルスタジアム
以下がアジェンダ(協議条項)である。

台風十八号のため、西日本の交通網が難しい状況に陥ることが予想される中、万難を排して標題の会議が開催された。会議には、全国47FAの4種委員長・女子委員長および技術委員長またはユースダイレクターなど総勢120名ほどが出席した。新潟県からは驚頭四種委員長と石川JFA女子サッカー普及コーディネーターの二人が出席した。

大会におけるベンチ入り指導者の資格基準(2017/2019年度)
ベンチ入り指導者のうち1人以上がD級以上
2020年度以降(予定)
全国大会...ベユース審判員を積極的

1 指導者資格について
今年度からトレセン指導者のライセンス基準が変更され、U-12地区トレセンにおいて、コーチはC級以上(全日本少年サッカー)

一、トレーニング保障制度(田島会長)
↓育成団体への育成にかかる経費を保障する制度。周知が足りないの今後とも周知への努力を続ける。
二、第四種登録チームの現状について
↓2013年度318548名をピークに漸次減少傾向にある。2016年度は289919名。4年間で28629名の減少。原因は少子化、引率保護者の不足、他チーム・サッカー教室への所属変更、スポーツ離れ、サッカー人気の低下などが考えられる。対策については今後の課題。

三、U-12ゲーム環境、八人制サッカーの検証、JFA Aトレセン制度について(山口育成技術委員長)
↓八人制サッカーはU-12育成年代にとって有益・有効である。トレセン制度については、B級以上指導者資格保有者の増大を仕組んでいく。
四、一人審判制の説明、ユース審判員の育成について(高橋審判委員)
↓一人制審判はこれからも推進していく。
五、U-12年代女子の四種移行後のフォーアアップと登録の現状について(今井女子委員長)
↓女子登録人数は2011年の三万人から2016年五万人と増えている。今後も継続していく。国体に少年女子を新設する。
六、暴力根絶、リスベクト・フェアプレーについて(松崎リスベクト・フェアプレー委員長)
↓日本発で全世界にリスベクト・フェアプレーの精神を体現していく。



第四十二回全日本少年サッカー大会の抽選方法について

第四種委員会

全日本少年サッカー大会が冬開催に移行し、今年度は3年目になる。今年度は147チームが参加する。U-12リーグ戦の結果を12リーグ戦の結果を

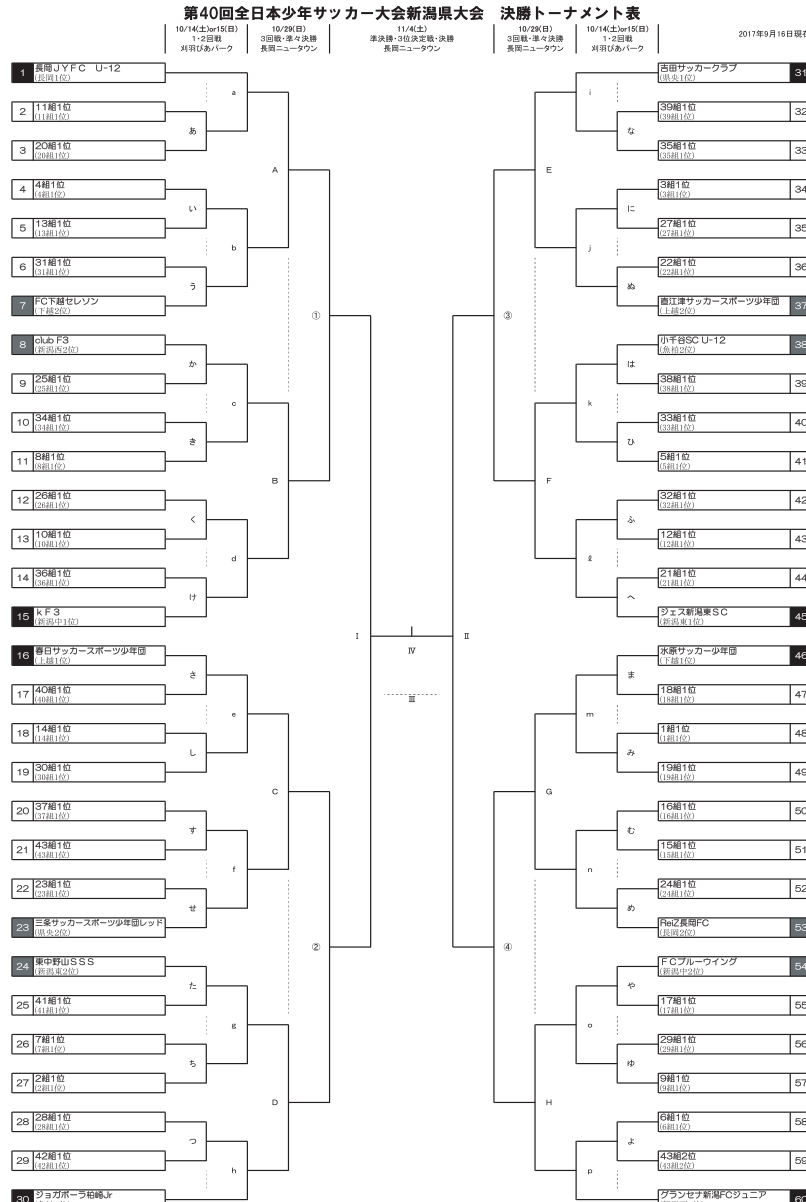
ロック上位2チーム全16チームがシードされ、10月14日15日の決勝トーナメントからの出場となる。最後に11月4日の準々決勝・三

県での移動となるなど多くの課題が心配される。今年度の抽選方法は、まず運営役員確保のため、役員チームを会場・日程である程度限定してから抽選し、次にリーグ戦の上

この度、7年ぶり2回目のバーモントカップ第27回全日本少年フットサル大会へ出場することが出来ました。はじめに関係者の皆様

大会を通して感じたことは、プレースピード、正確な技術、球際の激しさなどが日本のトップレベルのチームと

8月5日、6日と吉田ふれあい広場で第10回寺泊マリソールズカップが開催されました。寺泊陸上競技場が改修のため今年中止の方向で進んでいま



抽選した。(一部抽選数となり5チームによる変更) 最後に16チームのシードチームの抽選を行った。

第4種委員会では、各方面からご指摘のあった課題を改善しながら、よりよいやり方で全少年新潟県大会の運営を行っていき

抱く活動をしています。このフェスティバルを通じて、この年が楽しく、代からお互い相手に対してリスペクトの念を

それでも今大会は又エバスの新チームの初参加という驚きもあり、大会を担当している意味で新鮮な体験ができました。当日は審判をやったこと、頭がぼーっとするくらい暑い日、その中で子供達は走り切り、負けて悔し泣き環境でもサッカーをやりたい女子はたくさん

第9回新潟県キッズサッカーフェスティバルU-8開催について

第4種委員会 委員長 鷺頭 昌孝

初秋の香り始める晴天の中、9月10日に今年も『新潟県キッズサッカーフェスティバルU-8』が開催されました。

が応援する、大会に参加している人すべてがサッカーを楽しむ、サッカーに関わるサッカーファミリーとなるように実施させていた

また、フェスティバル実施にあたっては、対戦してくる相手チーム、サッカーを教える

第1回に参加した選手は高校生年代となり、現在でもサッカー選手としてプレーをしています。末永くこの

サッカーコートとなり、今大会の反省を生かし、女の子たちが気持よくプレーできるように、また、又エバスの新チームの初参加という驚きもあり、大会を担当している意味で新鮮な体験ができました。

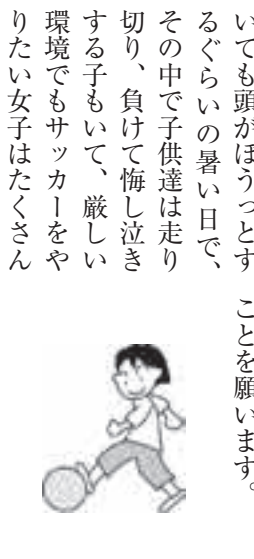
当日は審判をやったこと、頭がぼーっとするくらい暑い日、その中で子供達は走り切り、負けて悔し泣き環境でもサッカーをやりたい女子はたくさん

今年で第9回となる本大会は、会場を刈羽ピアパークサッカー場に

今年で第9回となる本大会は、会場を刈羽ピアパークサッカー場に

今年で第9回となる本大会は、会場を刈羽ピアパークサッカー場に

今年で第9回となる本大会は、会場を刈羽ピアパークサッカー場に



JCYレディーズサッカー フェスティバル2017

大会実施委員長 飯塚 正明

今年で三回目を数える「JCYレディーズサッカーフェスティバル2017」を新潟県燕市で8月7日から8月10日の4日間で開催

期間中猛暑あり、台風あり、そして最終日の快晴とめまぐるしく変わる天候の中において、選手達はものともせずに素晴らしい試合を繰り広げてくれました。特に1位決定戦では、地元アルビレックス新潟レディーズU15対つくばFCレディーズの試合は、前半2-1でリードしたアルビレレディーズに

対し後半0-2で逆転勝利したつくばレディーズの試合は圧巻でした。また、3位決定戦の東京ベイFC女子対グラッセナFC女子の試合は、PK戦までもつれ込むという試合でした。この様に、随所で僅差やPK戦といった緊迫した試合を見ることが出来

ました。これは、例年以上にレベルアップした女子選手の技術の向上と共に、試合に対する直向きな取り組みを感じました。今回は、北信越地域と関東地域からの参加となりましたが今後、本連盟からのアナウンサーを拡大すべき手段を検討し、より多くのクラブから参加して頂ける様にしていかなければならないと痛感しました。

それと、本年度の運営に際し至らぬことが多々ありましたことをお詫び致します。最後に、開催当初からご協力頂いておりました新潟県燕市及び燕サッカークラブ、それに

本年度の参加クラブは、10クラブ、11チームの参加で1日目から3日目を2グループでリーグ戦、4日目に各グループの順位別に



決勝戦	
アルビレックス新潟レディーズU-15	2
つくばFCレディーズユース	3
3位決定戦	
東京ベイFC女子ラパス	0PK3
グランセナ新潟FCレディーズ	0PK4
5位決定戦	
FC.CHOUETTE	0
FRIENDLY レディーズ	3
7位決定戦	
杉並アックスSCサザンカ	1
FCコラソン相模原フェミニノ	7

TOYOTAキッズ 巡回活動協働支援について

キッズ委員会委員長 堀澤 清

2017年7月18日(火)に協会会議室にて、株式会社トヨタ

マークetingジャバ様、トヨタカローラ新潟株式会社様と「TOYOTAキッズ巡回活動協働支援」事業についてのキックオフミーティングを開催し、今後の新潟県におけるキッズサッカー巡回指導活動の打合せを実施致しました。

その第一歩として、2017年8月25日(金)に、新潟市西蒲区の湯東ゆう学館及びタカローラ新潟株式会社様の30名の社員を対象にJFA公認キッズリーダー講習会(U-6)を開催いたしました。

これはJFAがトヨタ自動車株式会社様とパートナーシップを結んだ事により、今後、キッズ年代の巡回指導を中心としたためのスタートとして開催されました。

トヨタカローラ新潟株式会社様は新潟県社会人リーグにも所属され、サッカーの経験者も多くいらっしゃいます。この講習会には、サッカーの経験の有無にかかわらず、若手社員、女性社員の方も参加されました。

講義では双方のこの活動の思い、発育発達をふまえての指導心が、安全面に關する知識・実技指導でのポイント等、また実技では、おにごっこ・動きづくり・ボールフィーリング・ゲームを中心とした内容を皆様に受講していただきました。講義では、この年代で神経系の発達が約90%に達すること、だからこそこの年代では走る・飛ぶ・投げる等々の様々な動きが重要であることを理解してもらい、その上で実技を行いました。また、指導現場での実技指導の内容は大切なものがあります。安全面への考慮・参加対象の個々に応じたステップアップ(状況によって簡単に出来るものへ戻ること)やポジティブな言葉かけ・子どもとのコミュニケーションを心がけていただきました。

参加された方が非常に熱心にこの講習会に取り組んでいただき、明るく笑顔のたえない講習会であり、とても良い雰囲気での講習会を行うことができました。今後、県内各地においてJFAとトヨタ様との連携した活動が展開されます。

第29回ユニバシアード競技大会2017 台北で躍動した県勢

ユニバシアード男子日本代表、決勝戦でフランスを1-0で下し3大会ぶりの金メダルを獲得!

*ユニバシアード日本男子代表
小池裕太選手
(流通経済大学 アルビレックス新潟 U-18 出身)

ユニバシアード女子日本代表、決勝は延長戦で失点、0-1で悲願の金メダルはならず準優勝!

*ユニバシアード日本女子代表
瀧澤莉央選手
(神奈川大学 アルビレックス新潟 L U-18 新潟出身)
堀江美月選手
(静岡産業大学 開志学園 JSC L 出身)



東日本大震災 復興支援 がんばろう ニッポン!

サッカーファミリーのチカラをひとつに!

糸魚川駅北大火復興支援 「ふれあいサッカー」開催報告

糸魚川駅北大火復興支援事業として今年3月20日に開催されました「サッカーフェスタ」に続き、糸魚川市サッカー協会主催、上越市サッカー協会共催とともにも8月12日(土)に今回は元日本代表、解説者の北澤豪さんを迎えて「糸魚川ふれあいサッカーフェスタ」を開催しました。当日は天候の悪い中にもかかわらず小学生から社会人まで選手160名と父兄の皆さんをまじえたサッカーファミリー140名の方が参加され、北澤さんの指導のもと「ウォームアップ」から4つのカテゴリーに分



最後に、これからの活動に皆様方のご支援もよろしくお願いたします。来ます!」とスピーチされ、会場の皆さんと「致団結」された復興への決意を感じました。復興への道は険しいですがサッカーをとおして復興が加速される事を願っています。

NiFA マスタープラン 2007 スタート

(一社)新潟県サッカー協会は、英語名 Niigata Football Association の略称を従来の NFA から NiFA に変更し、これを「ニファ」と読みます。

また、新たなスタートを切る NiFA を象徴するシンボルマークを作成。4本の翼は新潟、上越、中越、下越の4地区協会を表し、新潟県の形も示しています。そして4地区協会の飛躍による新たな新潟のサッカーを GOAL に向かうサッカーボールで表現しました。さらに濃いブルーは新潟の空と海、地域に根ざした NiFA を表しています。NiFA はさまざまなシーンでこのシンボルマークを使用していきます。

NiFA の理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、県民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

NiFA のビジョン

1.新潟県におけるサッカーの普及に努め、全ての県民がサッカーに親しむ環境を作り上げる。
2.他の競技団体と連携し、スポーツをより身近なものとする事で、県民の健康で豊かな生活をサポートする。
3.新潟県を代表するチームが日本のトップレベルで活躍できるようサッカーの強化に努め、新潟県出身プレーヤーが国内外で活躍することで、県民に勇気・希望・感動をもたらす。
4.常にフェアプレーの精神を持ち、国内外の人々と友好を深め、社会に貢献する。

NiFA の目標 2015

2015年には、健全でゆるぎない組織となり、6つの目標を達成する。

- 新潟県内のサッカーファミリーが15万人となる。
- U-12、U-15、U-18、U-20、U-23、U-25、U-28、U-30、U-35、U-40、U-45、U-50、U-55、U-60、U-65、U-70、U-75、U-80、U-85、U-90、U-95、U-100の各年代別代表等に選出される選手を輩出する。
- 各カテゴリーの全国大会において、新潟県チームのいずれかが常にベスト4以上の成績を修める。
- JFLに加盟するチームを育成する。
- 各カテゴリーの全国大会、国際試合を誘致、運営する。

NiFA の目標 2050

2050年に向けて、組織基盤をさらに強固なものとし、2050年までに以下の目標を達成する。

- 新潟県内のサッカーファミリーが15万人となる。
- U-12、U-15、U-18、U-20、U-23、U-25、U-28、U-30、U-35、U-40、U-45、U-50、U-55、U-60、U-65、U-70、U-75、U-80、U-85、U-90、U-95、U-100の各年代別代表等に選出される選手を輩出し続ける。
- 日本で FIFA ワールドカップが開催される際には、サッカー専用スタジアムで試合を開催する。

第21回国際ユースサッカー in 新潟

U-17日本代表の優勝で幕を閉じる

今年の新潟選抜は3戦3敗で最下位という結果でした。大会運営関係者の皆様ならびに新潟選抜をご支援くださった皆様へ深く感謝申し上げます。

今大会は10月に開催される「FIFA U-17ワールドカップ2017インド」に出場する日本代表とメキシコ代表、欧州予選で惜しくも敗れたというクロアチア代表との対戦ということで、戦前からかなり厳しい試合になると予想できた一方、新潟県の選手にとっては例年よりもさらに貴重な経験ができると捉えていました。

大会に臨んだ新潟選抜は、昨年行われた「希望郷いわて国体」のメンバーを中心に構成さ



れました。国体では優勝した広島と対戦し、スコアこそ僅差ではありましたが、内容は圧倒されて敗れました。そこでは特に「ボールを奪いに行く」という面での差を実感したため、今大会のテーマを「ボール保持者への距離をこれまでにないほど詰めて球際の争いをつくり出す。そしてボールを奪うことで世界基準を知る。その積み重ねで勝利をたぐり寄せる。」と設定しました。

選手は全試合においてハードワークを繰り返し、チームの追求に取り組みました。無謀とも思えるような飛び出しも多々ありましたが、「ここまで寄せれば代表選手からボール



第21回国際ユースサッカー in 新潟を終えて
U-17新潟選抜監督 原 伸洋

第21回国際ユースサッカー in 新潟 大会結果

	U-17 日本代表	U-17 メキシコ代表	U-17 クロアチア代表	U-17 新潟選抜	勝点	得点	失点	点差	順位
U-17 日本代表		1 ○ 0	1 △ 1	5 ○ 1	7	7	2	5	1
U-17 メキシコ代表	0 ● 1		2 ○ 1	7 ○ 3	6	9	5	4	2
U-17 クロアチア代表	1 △ 1	1 ● 2		3 ○ 1	4	5	4	1	3
U-17 新潟選抜	1 ● 5	3 ● 7	1 ● 3		0	5	15	-10	4

聖籠町 スポアイランド聖籠	7月15日(土) 16:30~	U-17 新潟選抜 VS U-17メキシコ代表
	7月16日(日) 16:30~	U-17 新潟選抜 VS U-17クロアチア代表
新発田市 五十公野公園陸上競技場	7月15日(土) 16:30~	U-17 日本代表 VS U-17クロアチア代表
	7月16日(日) 16:30~	U-17 日本代表 VS U-17メキシコ代表
新潟市 デンカビッグスワンスタジアム	7月17日(月) 15:50~	U-17 新潟選抜 VS U-17 日本代表
	7月17日(月) 18:30~	U-17メキシコ代表 VS U-17クロアチア代表



第21回を迎えた国際ユースサッカー in 新潟は、U-17日本代表・U-17メキシコ代表・U-17クロアチア代表・U-17新潟選抜を擁する4チーム総当り戦で開催されました。本大会は、今年10月に開催されるFIFA U-17ワールドカップにインドに出場する日本代表、メキシコ代表にとつては強化を図る重要な大会になりました。新監督を迎え体制を一新した欧州の強豪クロアチア代表と昨年国体5位入賞を果たしたメンバー中心の新潟選抜が国際レベルに挑んだ大会でした。

試合は、日本代表、メキシコ代表が一歩抜け出す展開でしたが、新潟選抜は「選手個々の基準値を上げる」をテーマにこの強豪を相手に速さを生かし、ゴール奪取を貧欲に挑み存分にその実力を発揮しましたが力及ばず結果は三連敗の四位で大会の幕を下ろしました。

試合を通してチャレンジする姿勢は随所に見せましたが、奪い取るポイント、決定力など国際レベルには通用しない場面もあり今後の課題として本県サッカーを担う若手がどんな成長を遂げるか、今大会の手応え、悔しさを糧として今後に向けての有意義な大会となりました。

国際ユースサッカー in 新潟の関連イベントとして、聖籠町・新発田市・新潟市でサッカー教室を開催しました。ゲスト講師に山口素弘氏、元日本代表、元アルビレックス新潟をお招きしてアルビレックス新潟、下越地区サッカー協会、新発田市サッカー協会の全面協力を得て開催しました。山口講師とアルビレックス新潟スクール、下越地区、新発田市サッカー協会スタッフの熱意と情熱と愛情が溢れた指導は天候の悪い中参加した近隣の子どもたちに限らず見守って下さった指導者や保護者の方に感動を与えたものでした。

すでにサッカーに取り組んでいる子供たち、サッカーに興味がある、これからサッカーを始めたい子供たちまで幅広い層の子供たちを引き付け、またみんなと一緒にサッカーを楽しめた教室はこれからのサッカースポーツの可能性を更に拡大させるものでした。

これからも参加者の期待に応えるために、告知・広報を更に強化しこの事業を継続してまいります。

国際ユースサッカー in 新潟 報告書

国際ユースサッカー in 新潟 サッカー教室

◆第39回皇后杯 全日本女子サッカー選手権大会 2回戦のご案内

以下のとおり皇后杯2回戦を開催いたします。

開催日…2017年11月4日(土)、5日(日)
両日各2試合 計4試合実施
会場…新発田市五十公野公園陸上競技場
(グリーンスタジアムしばた)

*入場無料
*組合せ、試合時間等の詳細は後日決定
昨年、決勝戦で惜敗したアルビレックス新潟レディースの優勝を目指した戦いがこれから始まります。力強いご声援をお願いします。

皇后杯1回戦には、北信越代表として新潟医療福祉大学(第1代表)、福井工大附属福井高校(第2代表)が出場します。1回戦を突破し上位進出を目指します。両チームに熱い声援をお願いします。

大会結果報告

- 第4回全日本ユース(U-18)フットサル大会
- 準優勝 長岡向陵高校
- 第4位 帝京長岡高校
- 準決勝 長岡向陵高校 vs 帝京長岡高校
- 7(3-1-4-2) 3
- 3位決定戦 帝京長岡高校 vs フウガドールすみだ
- 3(1-2-2-2) 4
- 決勝 長岡向陵高校 vs 矢板中央高校
- 1(0-1-1-2) 3

●●スマイル&チャレンジ●●

当協会にご支援いただいている法人各社

TONY テレビ新潟 BSN新潟放送 新潟日報
東北電力 総合生協 新潟県信用金庫協会

2007年宣言の実現のため諸事業に取り組んでいます!!